

プロジェクト課題No.1

課題名 市場等ニーズに応じた花き・
花木生産による経営発展

対象名：株式会社南三陸Pine Pro(パインプロ)

計画期間：令和3年度～令和5年度

担当チーム員：◎須藤，平，高橋，猪野

1-1 背景

- 正月飾り等に利用されるクロマツの国内産地では、生産量が減少してきており、大阪市場では他地域での生産拡大を望んでいる。
- 大阪市場の要望で、平成30年から、南三陸PinePro後藤代表がクロマツ栽培をスタートしている。(法人経営)
- 後藤代表は、クロマツ栽培以前から大阪市場の要望でアジャストマム(短茎菊)を栽培しており、こちらにも増産を希望されている。(個人経営)
- クロマツとアジャストマムでは繁忙期が重ならないことから、法人経営と個人経営を統合して、経営の安定化を図りながら生産拡大を目指す。

1-2 令和4年度の活動目標

- ① 経営拡大に向けた生産体制が検討され、出荷調製施設の整備や雇用確保に向けた準備が行われる。
- ② 作業機械導入や雑草対策について検討され、クロマツの省力安定生産技術に関して理解される。
- ③ ニーズに合わせたクロマツの出荷規格及び出荷方法が再検討され、出荷率が向上する。
- ④ 露地電照栽培試験と鮮度保持技術の導入により、きくの需要期計画生産技術が向上する。
- ⑤ 法人の経営面積(クロマツ及びきく) 3.8ha

1-3 目標達成の課題(問題点)

活動
1

- 出荷調製施設建設予定地の地目変更, 資金借入手続きの遅れ。
- 従業員雇用後の経営シミュレーション。

活動
2

- クロマツ播種作業の効率化と均一化。
- 生育初期の手取り除草作業の省力化。
- 収穫後の出荷調製作業(枝葉除去)の軽労化。

活動
3

- 出荷規格の見直しと出荷率の向上。

活動
4

- 露地ギクの電照期間及び適品種の把握。

活動
5

- クロマツ栽培に適した土地の確保。

2-1 これまでの活動1

- 9月:出荷調製施設建設用地の確保支援
- 10月:公庫資金借り入れ計画の作成支援
- 11月:金融公庫ヒアリング同行
- 12月:建設開始
- 1月:補助金交付申請書作成支援
- 2月:クロマツ出荷量と収支の把握

⇒当初は10月末に完成予定だったが、着工が遅れ、完成は2月末となった。今後、従業員雇用後の経営シミュレーションを行う。

2-2 これまでの活動2

- 5月: クロマツ播種研修会(手散布)⇒12月電動播種機の導入
- 8月: 生育初期の雑草発生状況確認と除草剤の検討
- 11月: 出荷調製作業改善の確認と軽労化の検討



↑ クロマツの播種作業
電動播種機→



↑ 雑草の確認
調製作業の確認→



クロマツの枝葉除去装置の試作 2号機



2-3 これまでの活動3

・11月：出荷規格の確認と変更

令和3年度
出荷規格
全20種類
若松14種類
小松6種類

種類	等級	規格(長さ)	長さ	入数
枝松	1等	A	120cm	50本
		B		
		L		
	2等	S	100cm	50本
		L		
		S		
	3等	L	90cm	100本
		S		
		S		
アレンジ	L	80cm	100本	
	S		200本	
	S			
棒松			70cm	100本
門松			180cm	20本
			150cm	20本
			130cm	30本
			120cm	30本
			100cm	30本
小松	芯		40~50cm	100本
	3L		40~50cm	100本
	2L		35~40cm	120本
	L		30~35cm	150本
	M		25~30cm	200本
	S		20~25cm	300本

※注意事項：小松は10本1束に包装する。木揚げ時間は4時間程度とする。

令和4年度
出荷規格
全25種類
若松19種類
小松6種類

枝松の2L, 3Lが追加
ボサ150cm以上, 130cm
以上が追加
枝松の1等落ちが門松へ
追加

→規格が増えたことで出
荷率が向上

種類	等級	規格(長さ)	太さ(枝径)	長さ	枝数(アゴ)	入数
若松	1等	3L 70cmまで	9mm	120cm	3本	50本
		2L 60cmまで				
	1等	L 50cmまで	9mm	120cm	3本	50本
		S 40cmまで				
	2等	L	8mm	100cm	2本以上	50本
		S				
	3等	L	7mm	90cm	2本	100本
		S				
	アレンジ	L	6mm	80cm 枝長20cm以上	2本	100本
		S			1~2本	200本
	棒松			70cm	枝無し	100本
	ボサ				150cm以上	1本以上
				130cm以上	1本以上	60本
門松	1等落ち		9mm	130cm	3本	30本
			8mm以上	180cm		20本
				150cm		20本
				130cm		30本
				120cm		30本
			100cm		30本	
芯無し	若松の芯が無いものは小松に加工					
小松	小松	芯		40~50cm		100本
		3L		40~50cm		100本
		2L		35~40cm		120本
		L		30~35cm		150本
		M		25~30cm		200本
		S		20~25cm		300本

※注意事項：小松は10本1束に包装する。木揚げ時間は4時間程度とする。

2-4 これまでの活動4









- 4月～9月：露地ギク赤色LED電照栽培試験実施
- 11月：試験結果のとりまとめ

⇒ 南三陸町のお盆・お彼岸出荷に適した電照期間と品種の把握。



○電照栽培とは電灯照明を利用し成長の促進や抑制を行い、収穫期をコントロールする栽培方法。

優秀・有望品種紹介。

		
8月 市場出荷向け 優秀品種：無人。	8月 市場出荷向け 有望品種：栞はなこ。	8月 市場出荷向け 有望品種：栞はなこ。
		
9月 市場出荷向け 有望品種：秀こまき。	9月 市場出荷向け 有望品種：栞きくゆう。	9月 市場出荷向け 有望品種：栞たからぼし。
		
8月 小売り・直売所向け 有望品種：奇のたるま。	8月 小売り・直売所向け 有望品種：栞の奕	

後藤代表は「きくゆう」がお気に入り

農業・園芸総合研究所から8月用13品種、9月用11品種を提供してもらい試験した結果、8月用は5品種、9月用は3品種が有望であることが分かった。

2-5 これまでの活動5

- 1月: クロマツの栽培に適した農地の確保支援
気仙沼市小泉地区の農地の利用についてマッチングを実施

⇒令和5年度から一部栽培が開始される見込み
将来的には4ha程度の栽培が見込まれる



3-1 令和4年度の目標達成状況

- 目標:出荷調製施設の整備や雇用確保に向けた準備
⇒出荷調製施設2月に完成予定。従業員確保は検討中
- 目標:クロマツの省力安定生産技術に関して理解される
⇒播種機の導入。除草剤の検討(次年度試験)。枝葉除去の機械化検討
- 目標:出荷規格及び出荷方法が再検討され, 出荷率が向上する
⇒出荷規格の増加(20段階→25段階へ)。若松の出荷率が30%向上
- 目標:きくの需要期計画生産技術が向上する
⇒志津川地区での露地電照期間及び適期収穫に適した品種の選定
- 目標:法人の経営面積(クロマツ及びきく) 3.8ha
⇒令和5年度より小泉地区の農地利用で3.84haとなる見込み

3-2 今後の対応

- 地域に適したクロマツの栽培技術が確立され、出荷量が増大するように、播種方法，育苗方法，初期雑草防除方法，出荷調製方法について検討を進める。
- 気仙沼管内の生産者及び栽培面積を増やすためのクロマツ見学会を開催する。
- 令和5年度に導入するキク類の品種について地域適応性や商品性について検討を行う。
- 対象法人のクロマツ栽培と後藤氏個人のキク栽培の経営統合に向けた支援を行う

三陸新報や農業新聞にクロマツの記事が掲載されました。

4 対象者からのご意見

ようやく本格的なクロマツ収穫ができた。テレビ・新聞に取り上げてもらい、新たな栽培希望者が増えている。

南三陸町が宮城県の枝もの用クロマツ発祥の地と呼ばれるように新規栽培者を掘り起こし、栽培面積を拡大していきたい。

これからも頑張るので、県や町、JAには支援の継続をお願いしたい。

(株式会社 南三陸PinePro)



ご清聴ありがとうございました



お正月飾りに南三陸PineProのクロマツを使用したところ、小松のボリューム感がちょうどよいと、花束加工屋さんから評価されていました。